

Y04a

## 星空案内人<sup>(R)</sup> 資格認定制度の現状と科学文化形成について

星空案内人資格認定制度運営委員会 ( 柴田晋平 (山形大学)、安藤 享平 (郡山市ふれあい科学館)、甲田 昌樹 (十和田市民文化センター)、佐藤理絵 (NPO 法人小さな天文学者の会)、手塚秀幸 (飯豊町教育委員会)、山口亮三、大朝撰子 (NPO 法人三鷹ネットワーク大学推進機構)、渡邊文雄 (上田創造館)、船越浩海 (ハートピア安八)、有本淳一 (黄華堂)、富田 晃彦、尾久土 正己 (和歌山大学)、井上 毅 ((明石市立天文科学館)、坂元 誠、前野将太 (西はりま天文台公園)、川崎 忠昭 (星のソムリエ@西宮)、三島和久 (倉敷科学センター)、祝原 宗 (財団法人星のふるさと)、田端 研二 (那覇市久茂地公民館)

2003年から山形大学で実験的に導入されてから順次制度が整備された星空案内人資格認定制度は、現在では全国14の団体が共同して運営するまでになった。2007年からの全国版運営スタートキットができてからさらに各地で運用のノウハウを蓄積した。よりやさしい準案内人から案内人への養成の方法として2段階ロケット方式を導入し(2009年春の年会)、安定した養成ができる段階になって来ている。

養成された星空案内人<sup>®</sup>(星のソムリエ<sup>®</sup>)のみなさんの活動スペクトルが非常に広いことがわかってきた。小さなわが子に星を語ることから、幼稚園での観望会、学校や街角での観望会や様々な企画の実施、旅行添乗員、記事のライターなどその広さにおいて新しい普及の軸であることがはっきりした。科学文化形成への寄与が非常に期待できる。特に、準案内人とよばれるよりやさしいレベルの養成を受けた皆さんの重要性を指摘したい。

星空の文化の授業カリキュラムの検討など今後の課題についても当日は述べたい。